

---

# かなめと神社と恋占い

鷺嶺綺羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

かなめと神社と恋占い

### 【ZPDF】

Z6853F

### 【作者名】

鷹嶺綺羅

### 【あらすじ】

ふと思いついて書いてみました。オチも何もない習作です。

「旅行かあ……」「

明光学園教諭、福井かなめがそう呟いたのにはそれほど意味はない。

ただ、遊びに来ていた水瀬の家でテレビの旅番組を見た。それだけの理由だ。

「タマには、バカな教え子共から解放されて、息抜きしたいものだ」「近くでいいトコありますよ?」「

茶の間でかなめの横に寝そべつて「」誌を読んでいた水瀬が言つた。

「どこだ? 何? 凸凹神社?」

「縁結びで有名なんだって」

そう言つ水瀬の顔は、ニヤニヤと意味深な笑みを浮かべている。

「 ぐだらん」

水瀬から受け取つた「」誌を突き返しながらかなめは顔をしかめた。

「人生の伴侶を神仏に頼らねばならんほど、私は落ちぶれていない」

「葉子ちゃんに聞いたんだけどね?」

「おい、あの狐……たしか幼稚園児だろうが」

「お友達がお参りしたら 効いたつて」

「場所はどこだ?」

「……」

翌日。

「 まあ、いろいろあるんだねえ」

勇んで歩くかなめの後ろ姿を眺めながら、水瀬はため息をついた。

「あの歳になると 実家のご両親、安心させたいのかな。それ

とも寿退団狙い？南雲先生に先越されるのがそんなに悔しいのかな

「こら」

ルシフェルが水瀬をとがめた。

「女はいくつになつても、こいつにはちょっと憧れちゃうの」「ふうん？てつきり、同期で最後の独身ひとり身が今度、結婚するからかと思つた」

「そうじゃなくてね？」

「じゃあ、ルシフェも縁結びなんて興味あるの？」

「そうね」

ルシフェルはちょっとだけはにかんで、

「私も、かな？」

「博雅君に飽きちゃったの？」

「こらつー！」

「二人とも！」

かなめは怒鳴つた。

「今日は力入れて祈願するんだ！わかつてているのかー？」

「はあーい

「はい」

水瀬とルシフェルは、“どうしたもんぢやう？”と言つ顔でお互いを見た。

二十代半ばのかなめには全く浮いた噂がない。

せつかくの休日だというのに生徒の家に入り浸つている。

しかも洗濯物まで持つてきて、家事の一切を生徒に頼り切らうと  
いうのだ。

外見はかなり美人の範疇に入るが、何しろ外ではカタブツとして  
恐れられている身がこれでは致命的だ。

さすがに女として焦つているのかもしれない。

無論、恋人がいる一人にとつて、こういう女性の取り扱いなんて  
わかるはずがない。

ただ、何とか力にはなりたいと思うだけだ。

だから、一人は言つた。

「僕もきちんとお願ひします」

「私もです。先生」

「……」

それなのに、かなめの顔は曇つた。

「どうしたんです？」

「何だか……」

「？」

「お前等にまで先を越されそつで……」

「あの」

ルシフェルは言った。

「私達がお祈りするのは、福井少佐のこと……」

「な、何つ！？」

てつくり教え子達が自分のことを祈願するなどばかり思つていたかなめは、面食らつてしまつた。

「す、すまない！わ、私も心が狭いな……大人としての寛大さの一つも持つていなかつたか……」

「しようがないよ」

教師として落ち込むかなめに、水瀬は言った。

「事態は切迫してるんだもん！冗談抜きで切実なんだもん！その歳で彼氏ナシなんて、もう本当にシャレになつてないんだから、心の狭さなんて関係ないよ！」

「……水瀬」

かなめは水瀬の頭を軽く撫でながら言つた。

「殴らせろ」

「あつ」

駅の広告を見た水瀬が、ふと足を止めた。

「どうした？」

「秋場所、始まるんだなあつて  
「相撲か？」

「そう」

水瀬は腰を低くして小結の姿勢をとつた。  
「はつけよい……のこつたのこつた！つて

「お前、好きだつたのか？」

「うん」水瀬は頷いた。

「八百長が」

「……」

「残つた残つた」

相撲の真似事をする水瀬がかなめに向き直つた途端、水瀬の「の  
こつた」が漢字変換された。

「……おい」

そして。

「売れ残つた！」

「私は大売り出し中だつ！」

水瀬が駅のホームから空の星となつた。

「いい加減にしないと」

肩を怒らせて歩くかなめの後ろで、ルシフールがこいつと書つ  
た。

「本当に後が恐いよ？」

「ぐすつ」

「福井少佐だつて、女性なんだから」

「捨てたかと思つていたよ」

「だから」

「お酒とおつまみ、下着に服に雑誌が散らばつて足の踏み場もない  
部屋。とどめに万年床。片づけよつともしない。人の家、無断で間  
借りしてこるのでに」

「……そう言わると、ぐうの音も出ない」

「そういうのを直す方が、神様にすがるより先だって、どうして気づかないんだろ」

「……人は、欠点から田を背けるからね」

「……そつか」

「うわ。でつかい」

神社の社殿前に張られたしめ縄の巨大さに水瀬とルシフェルは目を見張った。

重さ数トンはあるのしめ縄には、何故か10円玉や5円玉が突き刺さっている。

「さつき聞いたんだけどね？ お金を投げて上手く刺さると、良縁に恵まれるって」

「へえ？ 水瀬君もやつてみる？」

「面白そうだね」

「人が5円玉を一枚ずつ財布から取り出した時だ。

ビュンッ！

ガンッ！

何か、まるで鉄砲の弾丸が固い物にはじかれたような音がした。

「ちつ！」

見ると、かなめの足下に何か金属の物体がめり込んでいた。

「う、撃たれたんですか！？」 血相を変えるルシフェルに、

「違う」

かなめは首を横に振った。

「小銭を投げたが失敗しただけだ」

「つまり 跳ね返ってきた？」

「これ もう使えないよ？」

力任せに投げすぎたんだよ。

教え子にやうづられ、かなめはもう一度、ややこしく投げてみることにした。

「ややこしく……ややこしく」

自分にやうづ言い聞かせたが、  
どうやあつ！

「……先生」

教え子の視線が痛い。

小銭は しめ縄を貫通してどこかへ消えていった。

「 まあ、とりあえず。お参りを」

「先生、お賽銭は奮発しようね」

「も、もちろんっ！」

かなめが財布から取り出したのは

「これだつ！これだけ出せばっ！」

「ええつ！？」

ルシフェルと水瀬が目を見開いた。

「い、一万円ですか！？」

「えつ！？」

「……間違えたんですか？」

「い、いや……あの」

「先生……思い切つてそれ位、やつちやつた方がいいかも」

「う……ううう……」

「出しちゃつた以上、引けなかつたねえ……先生」

「ら、来月の給料まで、あと何日あると……」

「食費に光熱費に水道代、僕達もちでしょ？」

「そ、それはそうだが……」

「いや、そこでそつだつて言わないで欲しい」

「……」

最後に三人が来たのは、婚期を占う」との出来るという神社の池。お金を占う用紙に乗せて池に浮かべ、その沈み具合が早ければ早いほど、婚期は早いといつ。

「……うう」

かなめは躊躇するか躊躇していた。  
結果が恐いのだ。

「先生」

水瀬は言った。

「恐かつたら、田をつむうてでもやつてみたら? ルシフもビウガ  
?」

「そ、そつか!」 水瀬、お前もタマにはいこと言つな。  
かなめは意を決して、池を見なによじにして用紙を水面に浮かべ  
た。

たかが占いだ。

口先では何とでも言える。

だが、かなめの何かが、その結果を知ることを恐れている。  
震える指が、用紙から離れた。  
その途端、

「……あつ」

水瀬は驚いた声をあげる。

「沈んだ」

「何つ!?」

早ければ早いほどいい。

そう聞いたこの占いで、いつもあつたつとー?・?

「ルシフのうが」

「……」

結局……

「ど、どうあるの？」

「どうもこいつも」

あたりが真っ暗になるまで池の前にしゃがみ続けるかなめの前で、水瀬達は対策を協議していた。

「用紙がゴミの上にのっちゃって、それで沈まないなんて言つても、今の先生が信じてくれるかどうか……」

「あれからもう2時間だよ？ 魔法で何とか」

「2時間待つたって事実だけは残るから……」

恐ろしいほど哀愁漂つかなめの背中に、どうせつて、何と声をかけていいのか、水瀬達はまるで分からずに立ちすくむしかなかつた。

「行こう？」

水瀬は、ルシフールの腕を掴んだ。

「もう一度、本気でお願いしてみよっよ」

「えっ？」

「先生に良縁を授けてくださいって、神様に」

「水瀬君」

「僕達には、それくらいしか出来ないんだから」

「…………うん！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6853f/>

---

かなめと神社と恋占い

2010年10月8日15時21分発行